（本號[illegible]）　（明治廿三年三月十一日遞信省認可）　明治二十八年九月二十日　第四千三百九十號　（定價金二錢五厘）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には本號詳細なる商況物價の報告あり

明治廿八年九月二十日　金曜日（庚、午）
舊曆乙未八月二日
日出午前五時二十八分　日入午後五時四十一分
月出午前六時四十六分　月入午後六時十七分
滿潮午前五時五十六分　午後六時十七分
（西曆一千八百九十五年）
年始より二百六十三日　年末まで百二日

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外遞送には此他後に揭ぐる遞送料を要す）

一號　貳錢五厘○一箇月　前金五拾錢○三箇月　前金壹圓四拾五錢○六箇月　前金貳圓八拾五錢○一箇年　前金五圓六拾錢○月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末一切休刊せず）

●前金　一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戾する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一　日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢

二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一箇月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一箇月　金六拾五錢

五　露領浦鹽斯德、清國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

●廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども或人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絕する事もあるべき筈に付豫め廣告依賴者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡充するより各社同一の記事を揭ぐるもの尠からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にまで報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直に本社に向け寄送あらんことを請ふ

時事新報社に寄したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戾せず又本社に保存せず

時事新報

臺灣を經營するに利益損失の念を離る可らず

我輩は前號の時事新報紙上にて臺灣に自由渡航を許す可きを論じたり今又該島平定の上にて其經營を如何せんと云へば我輩は常に實際の利益損失に注意して念々忘れざるものなり若しも當局者にして古來世界の戰捷國民が如何なる筆法に倣ひ新領地を觀るみと恰も一塊の戰利品の如くにして兵力以て其維持保存を謀り却て經濟上の利益損失を度外に置くが如き始末ならんには本國の大計の爲めに取らざるのみならず折角の戰利品も向後却て我れを苦しましむるの種子と爲る可し之を外國の例に照すに元來佛蘭西人の殖民政略は隣國たる英國人の殖民に巧にして其成績の美なるを目擊し英人の爲す所、佛人の爲し能はざる理由なしとの競爭心に出たるものなれども如何せん佛の當局者には一定の見識なくして其見る所利益損失の點に及ばざるもの〻如し左れば前年ボアトゥ氏が佛國代議院にて當時の政府を攻擊して曰く

佛國諸殖民地の人口は二千萬乃至二千四百萬の間にある可し而して佛國政府の每年殖民地の爲めに費す所七千萬法なり今諸殖民地每年の總貿易高を見るに四億一千萬法に上ぼれども我本國との取引に係るものは僅に一億七千萬法にして其內佛國より輸入を仰ぐものは七千萬法に過ぎず左れば佛國は七千萬法丈の物貨を賣捌かんとして七千萬法を消費し居る者にあらずや云々

以上はボアトゥ氏が佛國諸殖民地を概括して說を爲したるものなり今又我輩をして單に東京一殖民地の損得勘定を取て論ぜしめなば益々佛國政府の無謀なるに驚かざるを得ず一千八百八十三年佛國が大擧東京を攻略せし以來同九十二年に至る十年間に東京殖民の爲めに費せし處は實に四億七千六百萬法餘の大額に上りたれども同時期間に東京、佛國間の貿易額は僅に六千三百萬法餘にして其內佛國より輸入に係る者は五千九百萬法許なりボアトゥ氏の口調に倣ふて之を評すれば佛國は五千九百萬法許の物貨を賣捌かんとして四億七千六百萬法の大金を注ぎたる者と云ふ可し或は殖民政略の目的は營利にあらずして國光を輝すにありと云ふ者あれども一時政策の都合は兎も角も永く新屬地を領して戰捷の餘榮を墜すなからんと欲せば要は唯會計の收支相償ふの一事に在るのみ佛國人が東京の維持に苦しむみと今日の如くなるは畢竟國光談を先にして損得談を後にしたるの罪にみそあれば今日我日本政府に於ても臺灣の經營如何を謀れば目下強硬の軍略固より必要なりと雖も眼中常に損得の勘定を看過せずして先づ第一に內地人の移住を自由にし其殖產興業にあらん限りの便利を與へて毫も束縛する所なく一意專心唯利益の大ならんみとを期す可きのみ軍國の名聲を張らんとして其餘波遂に民業を沮格するに至りし佛人の失敗こそ我が爲めの殷鑑なれ吳々も忘る可らざる所のものなり數年の後に至り臺灣の全嶋は挨く既に平定して帝國の威光赫々たり但し其會計に就ては年々歲々內國の國庫を累はして收支償はずなどの奇談もあらんには是れぞ所謂虛名の勝利、實益の失敗にして國光の赫々も唯是れ石火電光の眼を掠むるに等しきのみ故に我輩の特に殖產興業の要を談ずるは單に損得談に非ずして其實は眞成の國光談なりと知る可し

雜報

○露國の侵略恐る可し

英國インヴェストーレヴューは露國の支那に對する擧動みそ英國人の最も注意す可き所なれと論じて云く我輩は曾て支那外債の政治上に關する現象に付き所見を陳述せしことありしが其意見は確實なるものとして我輩の今尙ほ固く執て動かざる所なり露國人も佛國人も支那より收むる報酬に就ては共に言を愼み深く事實を秘すれども斯る擧動は却て偶々外債一條の東洋に於ける英國の位置に一大打擊を加へ我が商權を侵害せんとする勁敵の出づる時遠からざるを表章するものにして即ち露佛は英國及び印度の物品を支那市場より驅逐し自國品の販路を擴張せんとて烈しき競爭を試みるならん尤も印度は近來支那人が阿片の需要を減じたる爲め少からざる損失を蒙りたれども其代りに紡績織物等の消費增加したれば彼の損は此の利にて相補ふを得可きを以て左程痛痒を感ぜざる可しと雖も叔て愛に特更注意を要するは是れ迄印度と英國のランカッシアー州とは右の二業に付き互に競爭せしみとにして同州の紡績織物業家は爲換相場の變動甚しきが爲め到底其敵手に拮抗し難きを感じ今や複本位說を主張するに至れり兄弟牆に鬩ぎ外侮を招くとは實に此事にて若し今後舊怨を棄て相ひ團結して外敵に當るの覺悟を定めざるに於ては權謀譎詐極りなき露佛人の跳梁する所となる可し豈に寒心す可き次第ならずや

當時支那の開港場は都て二十四個所にして其近邊の大河を遡り該國內の商業上の中心に達するみと容易なり又海關稅はサー ロバート ハート統轄の任に當り歐州人の手を以て事務を處理し就中英國人多數を占むと云へども是れとても長く其優勢を持續し得可きや甚だ不安心なり如何となれば露國は支那外債を保證するを口實として必ず我が國人を退け自ら取つて代らんとす可ければなり然のみならず西伯利鐵道の竣功するや直に百方力を盡して從來海運に貨物の運輸を依託せる支那の商業をして陸路を假り同鐵道に依らしめんとするならん抑も國有鐵道なる者の性質を推究すれば單に利益の考のみに止まらず一層大なる目的を有するものなるが故に最初の間は絕て利益なしとも厭ふ所に非ず左れば露國も亦同鐵道の收支相ひ償ふの談は暫く擱き只英國の航海業に妨害を與るを專ら心掛け終に其希望を達し夫より次第に前日の損失を恢復せんとするの意なるや明なり

我輩は固より以上に列擧したる國難の一度に襲ひ來る可しと云ふものに非ざれども歲月を經るに從ひ追々見はる〻は殆ど疑を容ざる所なれば若し英國の位地危殆ならんとする時に當り意外の事件現出して其災難を救ひしが如き事再び起るに非ずんば我國は非常なる苦境に陷る可し但し此苦境を切抜ける策として露國の志を他方に誘ふにありて隨分行はれ得るの望あり左るにても印度は如何にす可きや其救濟策なきには我輩の實に心を痛ましむる所なり抑も露國をして勝手次第に印度の國境を窺はしむるに至りし原因は全く英國政府の智謀足らざるが故にして彼は目前の小利を事とせず只管遠大の謀を爲せしに反して我は一時を苟偸しみそ返す〻も我輩の遺憾に堪へざる所なれ且つ我政治社界の有樣を觀察すれば愛蘭土地條例其他內國の些事に汲々として一切此邊の大事に注目するものなく空しく一ケ月を撰擧騷ぎに徒消せしとは言語同斷の次第なれども今より其非を悟り外患に對する策を講ぜんか大英國の威力を恢復するみと難きにあらず據て四川古田等の騷動は是れ亦我が政治家の大に熟慮を要す

る所にして逹
めに擊破せら
ら昔日の忘
兇行を演じか
ものと知る可
識の支那人共
しとも計られ

○逃走諸

を惜ませられ
の風說を聞き
像を北京に
あるべしと

○海底の

も清兵の
經たるに拘
のもあり偶
分離し片々
方なく殊に
海底に潜入す
の依然として
泳の爲め激
浮き來るもの
任務の潜水
已に斯く不
は一切兩地の
者は物語れ

○虎

の愕然た
ターク
とを保證
は其手
記者の實
とは事
人の耳に
ク氏を一人
略稱を用
之を書下し
んみとを

第一

瑞西國ジェニ
山水の秀麗
王黨員、露西
府當路の人の
政治社會の不
好き機會の
り掛りてなん
一口惜しや
と心の中に
色外に現は
驚く人はな
ひて共に是れ
と他館の旅客
の中に一個の
風采を具へ
要旨に沈み
會せる舞踏の